

# 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連	
<input checked="" type="checkbox"/> 有	有効都市豊根村の「湯〜ランドバルとよね」の入湯権の助成をして販売している。これを大人1枚100円、小人1枚50円から、大人1枚200円、小人1枚100円で販売する。
<input type="checkbox"/> 無	

## 1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	豊根村・上松町との交流事業							
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	都市・国際交流係	評価票作成者	都市・国際交流担当係長 伏屋一幸
1-3 総合計画における施策の体系	節	計画推進 「効率的で顧客志向の行政運営」			基本施策	広域連携	コード	6 1 1
	項				単位施策(中)	豊根村・上松町との交流	コード	6 1 1 3
					単位施策(小)	豊根村・上松町との交流	コード	6 1 1 3 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	豊明市・豊根村・上松町の職員及び住民		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		お互いの住民及び職員がそれぞれ交流することにより、相互理解を図る。職員においては、行政環境の異なった地域の実状を学ぶことにより、地元の行政に活かす。また、友好自治体内にある観光資源の有効利用を促し、友好自治体の産業に寄与する。		
1-5 事務事業の内容	本市職員の豊根村職員との交流事業。豊明まつり時の豊根・上松両自治体の物産品の販売。上松町の夏祭りでの本市物産品の販売。「湯〜らんど豊根」の入浴券の安価での販売。市民コーナーでの豊根・上松両自治体の紹介。							

## 2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み			社会状況等の事務事業がおかれる環境把握			市民ニーズの認識				
	平成18年度	職員研修で行っていた「豊根研修」を交流事業に切り替え、同分野の職員同士の交流を図った。他事業については従前どおり。			職員は行政のプロとして幅広い知識の集積が必要とされている。自然豊かな山村の自治体との交流は、市民の環境意識の改善につながる。			環境保全が叫ばれている現在、機会を捉えて自然豊かな場所へ赴き自然体験をしたいと考えている人も少なくない。温泉券の割引販売はそうしたニーズに合致している。			
	平成19年度										
	平成20年度										
	平成21年度										
	平成22年度										
	平成23年度										
	平成24年度										
	平成25年度										
	平成26年度										
平成27年度											
2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明					
	友好都市への交流イベントによる訪問者の数(延べ人数)			3,000(人)	4,000(人)	豊根村・上松町が本市の友好自治体であり、何人の人が訪れ、相手自治体を体験しているか。より多くの人が訪れることにより、交流も理解も深まる。					
2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(種類)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	4									
	人件費 c(千円)	291									
	合計コスト d(b+c)(千円)	355									
	単位コスト d/a(千円)	646									
	交流事業当たり 161	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 豊根温泉券は仕入れ値が466400円に対し、売上が179550円であったので、この件にかかるコストは286850円である。また、売上にかかる人件費は、1906枚の売上に対し31時間(一枚あたり1分)と見積り、3200円×31時間=99200円とした。職員研修事業について係員2名が打合せを含めて4日かかったと推計されるので、3200円×2名×32時間=204800円とした。また、豊根への有料道路代金は、3800円であった。上松夏祭りへの参加は、職員人件費2名分であり、3200円×2名×8時間=51200円であると積算した。

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	2,000(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	50.0(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
  - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
  - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
  - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
  - 公共性(公が実施する意味があるか)
  - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
  - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
  - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
  - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識			次年度に向けて改善する取組み			事務事業の担当課としての単年度の取組みの自己評価					
	平成18年度	市民の環境意識の高まりとともに、自然豊かな山村に出向き、体験したいと感じる人たちが増えていくことが予想され、様々な方策を講じ、現地に訪れることができるようになる。また、本市の特徴を相手側に積極的に伝え、相手側からの本市訪問を増やしていく必要がある。	様々な市民や団体が交流できるようなイベントの開催や、現在行われているイベントへを改良し、多数の人たちが交流できる環境作りを行う。	職員研修事業として実施していた豊根村訪問を、交流事業に変更し、相手方の職員との交流ができるよう手がけ、お互いの行政内容を知ることができた。市民交流については、温泉券の安価での販売、お互いの夏祭り等での出店をしている程度であり、もう少し裾野を広げたい交流が必要であるが、財政的な問題もあり、実施が難しい。	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	豊根・上松の人たちが本市を訪れる機会が少ないため、市内各種団体と相手都市の団体同士の結びつきが強まるような計画が必要である。	
平成19年度			
平成20年度			
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			